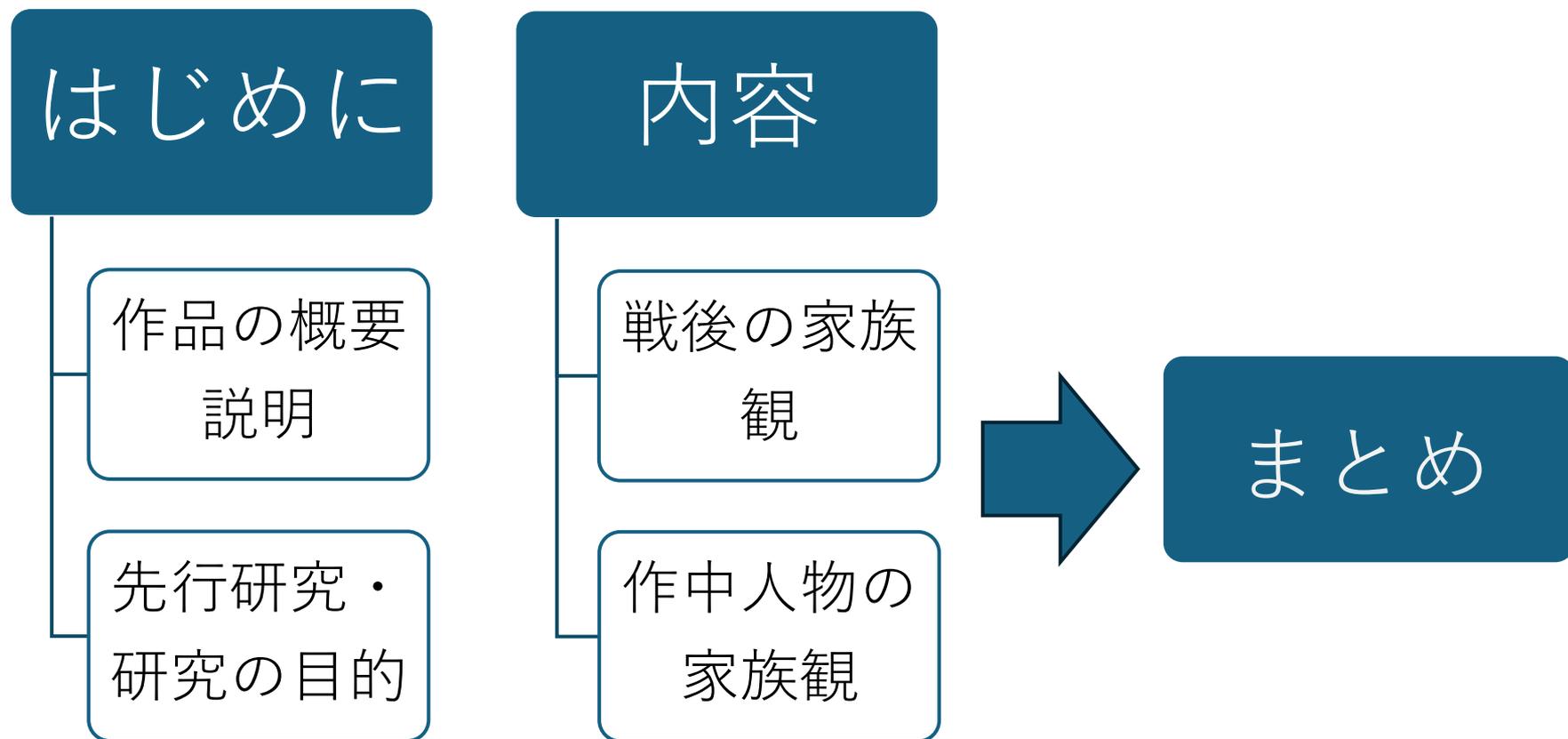


小島信夫「抱擁家族」論 —戦後の家族観を踏まえて—

文21-0639 堀田朋希



『抱擁家族』 とは？

• 概要

→1965年に発表された小島信夫の作品

→第一回谷崎潤一郎賞受賞

• あらすじ

→大学講師兼翻訳家の主人公である三輪俊介は、**家族と共に暮らしていた。**

アメリカ軍兵士のジョージがたまに遊びに来るが、ある日俊介は、妻の時子とジョージが一夜を共にしたと聞く。

この事件はうやむやになり、俊介は**家族の仲を深めようとするもうまくいかない。**

妻はガンで死に、様々な人間を家に入れるも、中々上手くいかない。そうして**息子は突然家出をしてしまう。**

はじめに

先行研究

- 江藤淳『成熟と喪失—母の崩壊—』

→重要な参考文献。1967年初出。

戦後の「母」と「子」の関係を書いた文芸・時代批評。『抱擁家族』研究だけでなく、広く参照される。



これに影響されて.....

同時代の研究は、「ダメな夫と妻の関係の話」「現在の家庭の実像を暴いた」というような評価。



しかし.....

近年の研究では、夫婦の関係の再解釈を目指すなど、『成熟と喪失—母の崩壊—』の解釈から離れようとする動きが盛ん。

研究の目的

- 先行研究は夫婦の関係や、主人公の人格について盛んに行われている。
- 同時代の価値観については、『成熟と喪失』に書かれていることを前提としている。



これを踏まえると.....

- 主人公と息子の関係はあまり研究がなされていない
- 同時代の価値観については近年の研究に基づく再検討が行われていない。



同時代の価値観を踏まえた上で、家族の関係を総体的に分析した研究をする必要がある。

論文の構成

- ・はじめに → 作品説明・先行研究・目的について書く

- ・第1章 同時代の家族観
→「家族」についてメディアから分析
- ・第2章 新住宅の構造
→同時代の家の構造から価値観を分析



戦後の
家族観

- ・第3章 夫婦の関係
- ・第4章 主人公と息子の関係
- ・第5章 3章と4章の関係の比較



家族の
総体的な
分析

- ・まとめ 1～5章をまとめる

戦後の 家族観

第1章 同時代の家族観

→新聞や同時代テレビで放映されていたドラマから、**アメリカ的な家族観**と**日本的「家」制度の家族観**の間で揺れ動いていることが分かった。
主人公もこれらに影響を受けている。

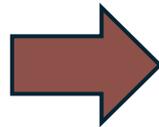
第2章 新住宅の構造

→**和洋折衷的な構造が主流**になっている。しかし、設計の狙いと実際の人々の使い方には**差**が生じている。人々は狙いよりも**旧来日本に近い暮らしぶり**を行っている。

戦後の家族観とは、

アメリカ的な家族観と「家」制度的家族観で揺れていること。

その人々が、固定的な家族観をもたないことによる不安そのもの。



家族の 分析

第3章 夫婦の関係

→従来の研究では、主人公である俊介と妻の時子の性質は真逆なものとして扱われてきた。
しかし、持っている家族観や、その家族観を確かめ合いながら生活する点は共通している。

第4章 親子の関係

→息子は、俊介が要求する行いに対して正面から拒絶しないものの、拒否感を感じている。

第5章 3章と4章の関係の比較

→夫婦は「家」制度的家族観を色濃く有しているが、息子は有していない。
世代間の価値観の差が、関係の状態の違いにも表れているのではないか。

まとめ

戦後の家族観

アメリカ的家族観と、
「家」制度的な家族観で揺れ動いている。そしてそのことの不安。
個々人により細かいグラデーションがある。

家族の総体的な分析

夫婦は共通した価値観を有している。
しかし、息子とは世代間の差か夫婦ほど共通したものになっていない。



『抱擁家族』は、**固定的な価値観を提示している小説ではない。**
むしろ、時代や個人の違いによって、有している価値観がそれぞれ違い、**その細かいグラデーション自体とそれによる不安が主題**となっている小説である。